

日 時：平成26年8月24日（日）18：00～20：00

場 所：昭和区陶生町付近（市立大学病院北側）、みやみち地蔵尊

## 【昭和区の歴史文化を守る会について】

地域のお地蔵さんの道標が半分土に埋まっているのを有志の皆で保全し、拓本取りをして、色々なことを調べたことがきっかけで、平成25年6月に発足した車椅子でも参加できる歴史散策ウォーキングチームです。郷土の歴史を学び、誇りと愛着を持つことが地域のまちづくりの第一歩であるとの思いから活動をしています。

昨年度は「まちづくり活動助成」を受けて、時代とともに姿を消した「地蔵盆祭り」を60年ぶりに復活させ、子どもたちにお地蔵さんの存在を知ってもらうことによって地域で大切に守り続けるきっかけづくりからはじめました。

今年度も、引き続き地蔵盆祭りを開催し、併せて古くからある街道「みや道」の周知をはかるため、石碑の設置なども予定しており、地域の歴史と文化を次世代に繋ぐ取組みに力を入れています。

## 【活動の様子】

### 1. 地蔵盆祭り



名古屋市立大学病院の東北の角に昔から宮参り往来の道しるべとして露座していた辻地蔵があり、今はお堂が建てられてその中に安置されています。その脇には道標があり、それには『右あつたみち、左なるみみち』と記されています。



日も落ちかけた夕刻、参加者は地蔵尊でお参りをして、そこで渡されるぼんぼりを持ってお祭りの会場に向かいます。

お祭りの会場は2箇所あり、近くに住む会員宅の車庫を利用して手作りで設営されています。用意された催しの内容は、射的、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、輪投げ、ダーツなど豊富で、どの場所でも楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿がみられました。



また、午後6時40分～7時と午後7時40分～8時の2回、名古屋弁で地域のお地蔵さんにまつわる紙芝居が会員によって上演されました。この紙芝居も会員による手作りです。ブルーシートが敷かれると続々と人が集まり始め、紙芝居会場は子どもたちでいっぱいになりました。紙芝居を観る子どもたちにはねり飴がくばられ、上演に向かって気持ちを高めています。



身振り手振りをまじえた紙芝居の上演が始まると、子どもたちは熱心に鑑賞していました。この日は小雨が降っていましたが、大人たちも会場の外で傘を差しながら読み上げに耳を傾けていました。



地蔵盆祭りは、地域の方の協力も得て20名ほどのスタッフで運営しました。さらに、今回はボーイスカウトの協力もあり、とても助かったとのこと。

会場の周辺には誘導灯を持ったスタッフが立ち、通行人への声掛けや、通行車両が来た際の誘導を行っていました。また、道路脇にはカラーコーンを設置して、通行を妨げることのないよう非常に気を配っている様子が伺えました。



この日の参加人数はおよそ300人と盛況でした。

自分たちの手でお祭りを復活させ、人と人とを繋いで歴史を伝えていきたいという熱意を感じるとともに、団体としての思いだけではなく、地域との関わりもきちんと築いていくことに心を砕いている様子が印象的でした。



～ くーちゃんの感想 ～

この日は朝から不安定な空模様で、時折小雨がぱらつく天気であったにも関わらず、会場はかなりの賑わいでした。地域の方がこのお祭りを楽しみにしていた事が伺えます。このような作り手の気持ちが伝わるイベントに参加することは、子どもたちが歴史を知るとともに、大人の方にとっても“まち”を再認識するよいきっかけになったであろうと思います。住んでいる土地に、皆で大切に想える歴史があるというのは素晴らしいことだと感じました。



～ にゃにゃの感想 ～

地域の若い世代や子どもたちに、一度は忘れ去られようとした歴史や伝承を知ってもらいたいという熱い思いが伝わってくるイベントでした。地域にある昔からのお地蔵さんの伝承を名古屋弁の紙芝居で子どもたちに伝えるなど、大人にも子供にもわかりやすく楽しめる工夫がされていました。あいにくの雨にもかかわらず、大勢の人がこのイベントを訪れ、とても活気があったことがイベントの成功を示している気がします。紙芝居をみつめる子供たちの真剣な眼差しが印象的で、まちづくりの原点をみたような気がしました。これからも素晴らしいまちづくりを期待しています。